

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年11月17日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 ゲスト：幾島奈央（HBC 記者、クマの特集を取材）</p>		
<p>検証テーマ：ワシントン連邦地方裁判所が没収の記者証返還を命令、トランプ大統領のロシア疑惑 オープニング、APEC を控えて、滋賀県高島市の饗庭野演習場から迫撃砲の砲弾が敷地外に着弾 皇太子ご夫妻が全国育樹祭に出席、【特集】板門店突破の兵士初取材</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン連邦地方裁判所が没収の記者証返還を命令 ・トランプ大統領のロシア疑惑 ・APEC を控えて ・岡山県井原市で夫を浴槽に沈めた妻を逮捕 ・滋賀県高島市の饗庭野演習場から迫撃砲の砲弾が敷地外に着弾 ・京都市内のスーパーでパート従業員が刺された事件 ・アメリカの老舗玩具店 FAO シュワルツがニューヨークに再出店 ・ゆるキャラグランプリ ・鹿児島県出水平野のツルの羽数調査で今年も万羽鶴 ・皇太子ご夫妻が全国育樹祭に出席 ・日大アメフト部が練習試合 ・日大学生が強盗の疑いで逮捕 ・静岡県伊東市の伊豆シャボテン動物公園でカピバラの露天風呂 ・【特集】板門店突破の兵士初取材 ・【特集】クマとの共存を考える ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン連邦地方裁判所が没収の記者証返還を命令：結論→特に問題なし ホワイトハウスが記者の入構許可証を取り上げたのは報道の自由の侵害に当たるなどとしてアメリカの CNN テレビがトランプ大統領らを訴えた裁判についてワシントンの連邦地裁は 16 日、暫定的に記者に許可証を返すよう命じたこと、訴訟は今後も続く見通しだがメディアを敵視し強気の政権運営を続けてきたトランプ氏には大きなダメージとなりそうとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 93 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。 ・トランプ大統領のロシア疑惑：結論→特に問題なし ロシア疑惑をめぐる文書での回答についてトランプ氏は 16 日捜査を指揮するモラー特別検察官からの質問への回答を書き終えたと明らかにしたこと、回答は弁護士ではなくトランプ氏自身が書き、ロシアとトランプ陣営の共謀はなかったと疑惑を否定する内容と見られ近く提出される見通しで捜査は大詰めを迎える可能性があるとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 34 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 		

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「アメリカ CNN のアコスタ記者への記者証返却を素直に喜びたいと思います、さて、今日の報道特集では約 1 年前に南北軍事境界線を突破して韓国に亡命した元北朝鮮兵士への単独インタビューを特集でお伝えします。御覧ください。」とコメントしていた。このコメントのシーンは 18 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・APEC を控えて：結論→特に問題なし

APEC アジア太平洋経済協力会議の首脳会議がパプアニューギニアで今夜の開幕を控え、インフラ投資でアジア太平洋地域で影響力を高める中国に対抗してアメリカも七兆円近い融資を表明し存在感の回復に努めているとことが伝えられるとともに、中継からの以下に朱記した報告が取り上げられていた。

磯田雄大（報告）「はい、こちら APEC の開場の一つパプアニューギニアの国際コンベンションセンターです、これ入口入ってすぐの開場の名前なんですが英語とともに下の方、中国語でも書かれているんです。なぜかという、この施設チャイナエイド中国の援助によって作られた施設なんです。」

磯田雄大（報告）「こちらパプアニューギニアにある日本大使館なんですが、その目の前の道路に習近平国家主席を歓迎する大きな看板が設置されています。中国の赤い国旗がはためくこちらの国会に繋がる道路。この道路も中国の援助によって整備されました。首都ポートモレスビーではいたるところで中国の国営企業による建設工事が進められ中国が進める一帯一路の標語が張り出されています。今回、習近平国家主席は首脳会議の 2 日前に現地入り、中国の援助で作られた学校などを視察した他、国交がある周辺八カ国と首脳会議を開きさらなる支援を約束しました。警戒感を強めるアメリカは欠席したトランプ大統領にかわってペンス副大統領が今日演説しインド太平洋諸国に対しておよそ 6 兆 8000 億円の融資を表明。借金漬けにする中国よりもアメリカと協力したほうが良い戦略だと強調しました。こうした中、日本とオーストラリアもインド太平洋地域の支援でアメリカと協力することを確認し生命を発表しました、中国との関係改善が進む日本はアメリカ、そして中国との距離感に苦労することになりそうです、以上中継でした。」

このトピックに当てられた時間は 135 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・滋賀県高島市の饗庭野演習場から迫撃砲の砲弾が敷地外に着弾：結論→特に問題なし

滋賀県高島市の陸上自衛隊饗庭野演習場から発射された迫撃砲の砲弾が敷地外に着弾し車が破損した問題で、自衛隊の責任者らが説明会を開き地域住民らに謝罪したこと、今月 14 日饗庭野演習場から発射された迫撃砲の砲弾が敷地外に着弾して以来、周辺住民らは不安をつのらせているとのこと、が報じられ、地域住民の「他の駐屯地の人がここに移動されて演習されたということですけど、この周りの土地ってというか、土地の状況というのをご存知で演習されているのか。」という質問に対し、陸上自衛隊今津駐屯地司令の水谷清隆氏が「国道が近くに走っている、あるいは民家が各区にあるその中で射撃訓練をするということは各部隊とも承知をした上で射撃をしております。」と答えていた場面が取り上げられるとともに、今後、訓練の手法や装備に問題がなかったかどうか内部の事故調査委員会が速やかに調査すると説明したとことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 74 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

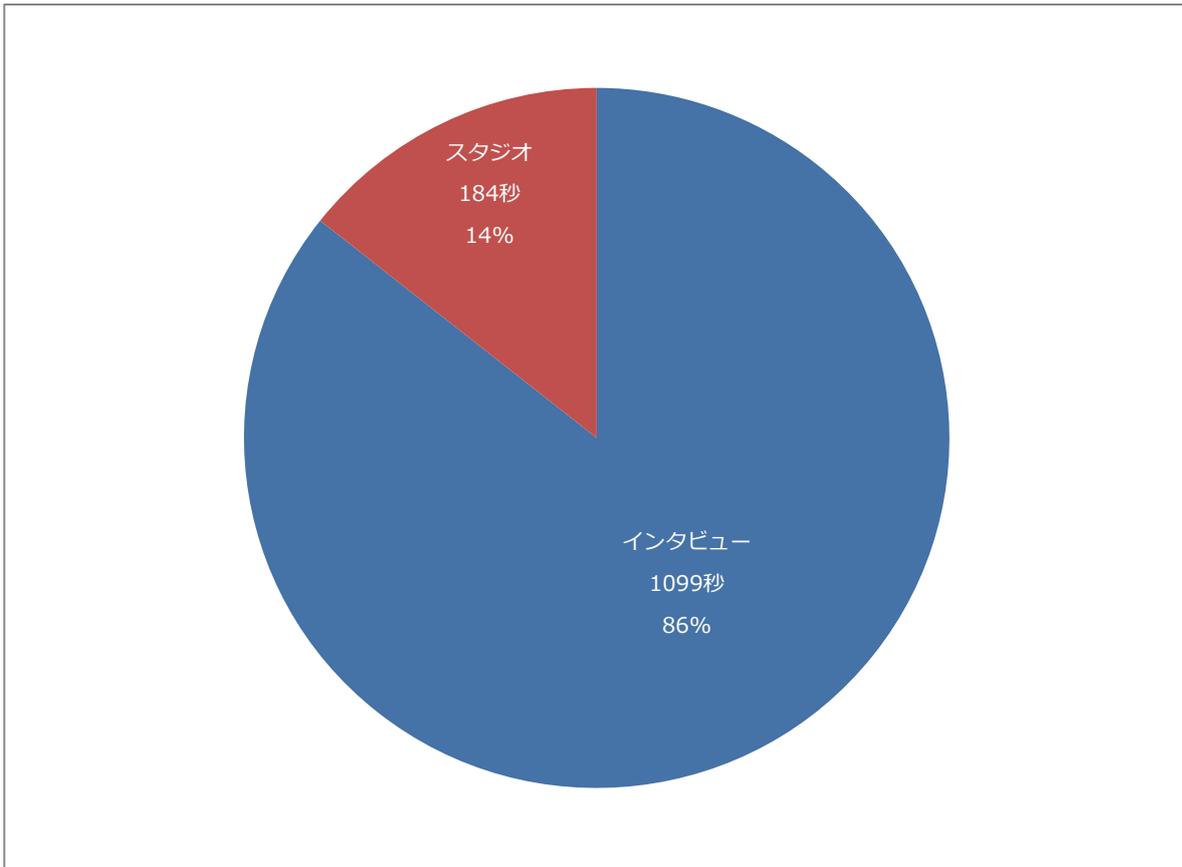
・皇太子ご夫妻が全国育樹祭に出席：結論→特に問題なし

皇太子ご夫妻が今日から 2 日間の日程で始まった全国育樹祭に出席されたこと、開場は 2020 年の東京オリ

ピック・パラリンピックで馬術などの競技会場となっている海の森公園予定地であること、皇太子さまは 24 年前に天皇皇后両陛下が植えた銀杏の枝をのこぎりできるなどの手入れをされたとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 24 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】板門店突破の兵士初取材：結論→特に問題なし

板門店突破の兵士への取材が特集されていた。この特集に当てられた時間は秒で、取材の VTR とスタジオでのシーンに大別されそれぞれの時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR では以下に朱記した様子が取り上げられていた。

膳場「今から 1 年前、朝鮮半島の軍事境界線を北朝鮮の兵士が突破、韓国に亡命しました。警戒が最も厳しいパンムンジョムで起きた異例の事件。何のための亡命なのか、そしてあの日の一部始終は？元兵士が初めて詳細を語りました。」

ナレ「南北を隔てるパンムンジョムへ向け、猛スピードで走る一台の車。これに気付いた北朝鮮の兵士たちは、一斉に走り出す。車は軍事境界線を目前にしてとまり、飛び出した兵士へ背後から一斉に発砲が行われた。」

ナレ「厳戒態勢のパンムンジョムを突破したこの事件。世界に衝撃を与えた。韓国に亡命したこの元兵士に今週、私たちは初めて取材することができた。」

膳場「おはようございます。」

ナレ「今から、1 年前、厳戒のパンムンジョムを突破し、韓国に亡命した北朝鮮兵士。私たちは今週、都内で、取材することができた。」

膳場「お名前と、出身の町、出身地について、うかがえますか？」

元北兵士（翻訳・字幕）「私の名前はオ・チョンソンといいます。故郷はケソンです。」

膳場「じゃああの、生い立ちについて伺いたちので、答えられる範囲で答えていただきたいと思います。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「私は軍人の家庭に生まれました。父親は職業軍人です。軍で勤務していました。北朝鮮社会で言うところのエリート一家に生まれ、ずっと上流の階層で暮らしてきました。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「行きたい場所にいけましたし、食べたいものも食べられました。買いたいものを買っていました。スズキ。日本のオートバイをご存知ですよね？日本製の。それも私の家にありました。」

ナレ「父親が昇進するたびに引っ越し、学校は7, 8回転校したという。エリート層には、韓国文化の流入も。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「若い世代は、韓国のドラマとか、歌とか、たくさん見ていました。北朝鮮は韓国ドラマを見られないように、遮断しているけど、若い世代にはそういうことがうまくいかないんです。みんなこっそり見ながら、韓国はどういう国なのか、ずっと気になっていました。」

ナレ「エリートの家庭に生まれ育った彼が、なぜ亡命することとなったのか？」

ナレ「1年前、パンムンジョムを突破し、韓国に亡命した元北朝鮮兵士。父親は軍の高級将校。エリート家庭に生まれ育った彼は、高校を卒業後、兵役についた。」

膳場「パンムンジョムで働くようになった経緯を教えてくださいませんか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「私がいた JSA のパンムンジョムは最前線ということで、金正恩が何度も何度も現地指導をしました。金正恩はパンムンジョムの警備隊に特に目をかけていて、彼らをたくさん入党させていました。私は大学の法学部を卒業して、検事になることが夢でした。パンムンジョムで軍事勤務の実績を積んだという経歴が将来の為に大きな助けになるんです。それで両親と相談して、入党しました。入党して、大学に行くのを待っている状態でした。」

膳場「北朝鮮での生活に不満があったりしたわけではなかったんですか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「北朝鮮に対する不満はありませんでした。北朝鮮では、お金さえあれば、生きていける。そう思っていました。党が命じるままに暮らしていたんです。」

ナレ「パンムンジョムでは、運転兵を務めていた。車を運転する人が少ない北朝鮮の中で、あこがれの任務だったという。」

ナレ「韓国側からは、当時宣伝放送も聞こえていたが、」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「韓国の拡声器放送はよく聞きました。韓国は夜景が素晴らしいので、夜になるとよく見ましたが、拡声器放送については、特に気に留める内容もなく、北朝鮮の軍に自分たちのことを自慢しているとしか、私は受け取りませんでした。」

ナレ「彼は厳しい訓練にも耐え、明るい性格でみんなに好かれていたという。」

膳場「仕事に対しても不満は無かった。なのにどうして、あの時脱北することにしたんですか？」

チョンソン氏「(翻訳・吹替)「北朝鮮のタイセイに不満があって韓国に来たのではありません。トラブルが起きて、亡命をすることになりました。」

ナレ「トラブルとは何なのか、何度も聞いたが、彼は詳細を語らなかった。ただ、政治的なものではなく、個人的なトラブルだと話した。」

膳場「軍の規律には違反するようなことをしてしまったってということですか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「そうです。部隊の規律から外れることが、起きたんです。韓国に来ることになったその日の朝まで、いつものように楽しかったし、仕事も好きだったし、将来に希望もあったんです。本当に想像もできないことが起きて、すごくおどろきました。」

ナレ「部隊の中で起きたトラブル。そのさなか、銃声がしたという。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「その状況になると、人は誰でも自分の命が大切ですし、生き延びようとするじゃないですか。仮定の標的に向けた銃声ではなく、私を狙った銃声を聞いた、その時、韓国に行くと、決意したんです。」

韓国ニュースアナ（翻訳・字幕）「今日の午後、北朝鮮軍の兵士が板門店から韓国側に亡命しました。」

ナレ「韓国側の監視カメラは、午後3時過ぎに起きた異変の一部始終をとらえていた。北朝鮮側からパンムンジョムに向かって猛スピードで走る車」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「仕事で使う車ではなく、友達の車です。ここに道を遮断するバリケードがありますが、そのバリケードを突破する前に、ブレーキを踏みました。」

膳場「呼び止められたりは、しなかったんですか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「人がやってきています。詰め所を守る兵士です。バリケードに車でぶつかっていったから、大事件が起きていると直感して、私を追いかけ、銃を撃ってきました。」

ナレ「管理等の兵士たちは車を静止できず、車はパンムンジョムへと続く橋を通過した。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「スピードは180キロくらいになっていました。」

膳場「怖かったですでしょう。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「少し怖かったです。」

膳場「こういう時どんな感覚なるんですか？もう興奮してるのか、こわいって思っているのか。何も考えられないのか。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「他のことは考えられませんでした。自分に向けて銃が打たれていることと、韓国に行かなければという思いしかありませんでした。」

ナレ「車はモニュメントの前でスピードを落とす。その先の道は2手に分かれていた。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「石碑の前で右折して、こう入りました。この道を選択した理由は、この先に兵士がいなかったからです。こっちに行かなかったのは、ここに兵士がいるから。こちらは死ぬ確率が高かったのです。ゆっくりと進みながらそのことを考えていました。」

ナレ「兵士が配置されている監視所などを避けて進む。しかし車は溝にはまり、軍事境界線を目前にして動かなくなってしまった。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「最後まで銃に撃たれないためには、車から降りずに行かなければならないと考えていました。車をバックさせ、溝から抜け出して、又前に進もうとしましたが、抜け出せなくて、そこで時間を何分か消費して、」

ナレ「異変に気づき、一斉に走り出した兵士たち、彼らの手にはライフル銃だ。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「横を見ると、兵士たちが4、5メートルのところまでせまって来ていました。そのまま車にのっていたら、もう駄目だと思い、それで車から降りて、走り出したのです。」

ナレ「兵士たちは背後から次々と発砲した。」

膳場「追いかけてきた兵士というのは、知っている顔見知りですよね？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「銃を撃ってきた中には、友達もいました。全員顔見知りです。運転兵をしていましたから。」

膳場「躊躇なく撃ってきたんですか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「こういうことがあれば、銃を撃てと普段から教育を受けているのです。私もそう教えられていました。もし逆の立場だったら、自分のような人物が現れたとき、私も手元に銃を持っていれば、撃っていたと思います。パンムンジョムで任務に就くことのできる兵士というのは、朝鮮労働党や、金正恩体制に、

とても忠実な人たちが選ばれているのです。」

韓国 YTN ニュース（翻訳・字幕）「ひっそりした板門店に突然複数の銃声が響きました。」

ナレ「韓国の国防省によると、北朝鮮軍が発砲したのは、40 発あまり。銃弾の一部は軍事境界線を越えたという。映像には、境界を越えてしまった北朝鮮兵士が慌てて引き返す姿もあった。けがをおして走り続け、軍事境界線を越えた。北朝鮮側では、なすすべもなく、立ち尽くす兵士たちの姿が。」

膳場「軍事境界線を越えて、どっか隠れようと思ったんですか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「銃で撃たれているということと、生き延びなければならないという思いだったので、いつ 38 度線を越えて、いつ韓国の地に倒れたのか、わかりませんでした。」

膳場「この逃げているときは、打たないでくれとか、ごめんみたいな言葉を交わしたり、叫んだりしましたか。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「通じませんよ。そんな言葉。」

膳場「どこを撃たれた。撃たれたなあというのはわかりましたか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「腕・足・胸、打たれてないところがないくらいです。ここと、ここ。こっちと後ろ。ここの足。経験しない限り、わからない痛みです。」

ナレ「力尽きて、韓国側の建物の横に倒れこんだ。軍事境界線を越えて、およそ 40 分後、温度を感知するカメラで撮られた映像では、国連軍の兵士たちが、匍匐前進で近づき、救助する様子が写っている。」

膳場「この時は意識はありましたか？助けに来たなああって。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「かすかに引きずられているという感覚はありました。そのあとから、もう意識は無くなりました。大量に出血している状態でした。」

ナレ「その後、彼は、アメリカ軍の医療用ヘリに乗せられ、病院に運ばれた。」

膳場「ヘリコプターで病院に運ばれたんです。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「処置してくれた医務官はこの日が定年退職で、最後の日でした。彼はクリスチャンで、こう祈ったそうです。これまでの軍生活で、銃で撃たれた人を助けたことはありませんが、神様、たすけてください、と。」

ナレ「迅速な応急処置もあり、一命をとりとめたが、数日間、意識を失ったままだという。」

膳場「すごい出血でしたね。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「自分の血は残っていませんでした。すべて輸血された地です。」

ナレ「手術を行った主治医は彼の状態について、」

主治医（翻訳・吹替）「内臓が 7 か所以上損傷しています。銃弾はまだ残っています。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「このバツ印のところが、弾が貫通したところ。AK は弾が回転しながら飛んで行って、体の中のいろんな方向に入り、内臓を傷つけていきます。」

ナレ「体に入った銃弾が、内臓何か所も損傷させたため、手術には相当の時間を要したという。」

チョンソン氏「私はこの時のトラウマでいまだにぐっすり眠ることができません。銃に撃たれた記憶でびっくりして、起きてしまうことがよくあります。」

膳場「意識が戻った時に何を考えましたか？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「意識が戻った時は、両親のことしか思い浮かびませんでした。両親には私しかいませんし、私にも、父と母しかいませんでした。両親と会えない状況になってしまったので、とてもつらかったです。」

ナレ「亡命の 5 か月後、彼が兵士として働き、軍事境界線を突破したパンムンジョムでは、」

ナレ「南北首脳が歴史的な握手を交わした。」

膳場「オさんが脱北したその半年もしないうちに、南北首脳会談が板門店でありましたけれども、ああいうのはどういうお気持ちでご覧になりましたか？あの場所だ一っていうのは？」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「私は政治に全く全く関心がありませんでした。文大統領が北朝鮮に入ったし、金正恩委員長も韓国に来ました。正直、私の立場からすると、統一すればいいと思います。どのような統一になるかが重要ですね。」

膳場「不思議な感覚がしませんか、同じ場所で」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「そんなに不思議な感じはしません。」

膳場「この時警備していたかもしれないわけですよ。亡命してなかったら」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「はい、続けていました。」

ナレ「彼は現在、韓国で名前と生年月日を変えて、暮らしている。」

膳場「亡命したことについて、いま自分はどういうふうにして受け止めていらっしゃるんですか？よかったなあと思うか、それとも後悔があるのか。」

チョンソン氏（翻訳・吹替）「後悔しても、北朝鮮で元の生活を取り戻せるわけではありません。現状に満足しています。」

VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられていた。

膳場「あの北朝鮮兵士、亡命兵士と聞いて想像していた人物像と、まったく違って、非常に明るくて、屈託がなく、あの今どきの青年だったのが印象的でした。身長も 180 センチと、北朝鮮では珍しく高くって、エリート家庭出身で、何不自由なく育って、体制への不満もない。無かったということです。」

日下部「あの聞いていてね、言葉の端々から、今の北朝鮮の若者の考え方、意識の変化みたいなものを感じました。エリート家庭といっても、党や国家よりやっぱり自分、本位なんですね。ただ彼が今、置かれているですね状況を考えると、北にも南にも配慮というかですね、気がねしなくてはならないというね、言えなかったこともあるんじゃないですか。」

膳場「まあそうですね。あの亡命理由について、政治的なものではないとってたのは、これは本当だともうんですけどね。じゃあ引き金となった部隊の規律違反が具体的に、何なのかについては、何度聞いても、それ以上は答えられないということで、話せないことというのでも少なからず抱えているんだなと感じました。また銃弾の傷跡を撮影させてほしいと、頼んだんですけども、それも今は影響が大きいということで断られました。ただカメラなしにという条件で、右腕の 2 か所の傷を確認させてもらったんですけども、AK カラシニコフによる生々しい傷跡が、実際にありました。」

金平「この元兵士がね、命がけて超えた軍事境界線をその半年もしないうちに、南北両首脳が越えたシーンが続くというのは何というか運命の皮肉みたいなものも感じますけど、その彼がね正直、南北は統一すればいいという意味みたいなものを言ってたというのは、正直とても意外でしたけどね、」

膳場「家族にまた会いたいのかもしれませんね、まあいろんな思いを抱えているんでしょう。現在彼は通院しながら、会社で働いて、韓国での生活にも適応してきて、順応してきて今後は大学で勉強して、ゆくゆくは事業を起こしたいと話していました。」

膳場「で、最後に聞いたんですけどね、南北両方の社会を彼の目から見て、いいところどこですかと聞きましたところ、北朝鮮では、エリート家庭に生まれたために、コネを使えば、なんでも望むものが手に入って、やりたいことができる。一方韓国では、自分が努力しただけ、手に入れられる。自由が多いのもよいと話していて、その言葉が社会の違いを端的に表しているようで、非常に印象的でした。」

TV 報道検証【報道特集】 報告書

この特集では放送法上問題のある場面は特に見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感
特になし